

ハロー!



武蔵野市の外国人支援 特集 2

広げよう多文化の和

ナマステ!



市内の外国人居住者の数は年々増えています。海外から訪れ、同じまちに暮らす方々をサポートする地域ぐるみの活動をご紹介します。

外国の方はこんなささいな事でも困ってしまいます

- ◎ 電車の切符の買い方が分からない。
- ◎ バス中でのアナウンスが分からない。
- ◎ 食品の表示が読めない。
- ◎ 乳児の予防接種の受け方が分からない。
- ◎ 保育園や幼稚園の入園手続きに必要な書類や記入方法、面接の方法が分からない。
- ◎ 学校からのお便りが読めない。
- ◎ 子どもに宿題を教えられない。

**外国人住民を
さまざまな角度からサポート**

武蔵野市では、平成2年に約1700人だった外国人住民数が、現在は約2300人、出身国も80カ国にまで増加しています。日本で仕事に就く長期滞在者も増えており、市民として生活を営む外国の方が多く在住しています。

外国の方は、日常生活を送る中では、ちょっとした場面でも戸惑いを感じることもあります。例えば、近隣住民との気軽な会話の意味が分からなかったり、子どもが通学する学校からのお願いが読めず、コミュニケーションがうまくとれないこともあります。こうした文化や言葉の違いから生まれる小さな困り事は、市民同士でも十分サポートすることができるようになります。

便りが読めず、コミュニケーションがうまくとれないこともあります。こうした文化や言葉の違いから生まれる小さな困り事は、市民同士でも十分サポートすることができるようになります。

市では市内で暮らす外国の方に向けて、武蔵野市国際交流協会(MIA)の活動をはじめとする支援が行われています。市民ボランティアも増え、さまざまな国籍・年齢の外国人をいろいろな角度から支援し、武蔵野市民として住みよいまちづくりを目指しています。

公益財団法人 武蔵野市国際交流協会(MIA) MIAってどんな活動をしているの?

市民が主体となって国際交流を進め、「地域で共に助け合って暮らせるまちづくり」を目指して平成元年に設立されました。主に「生活支援」「コミュニケーション支援」「多文化共生の地域づくり」を事業の柱としています。

所在地：境2-14-1 スイグ9階 ☎0422-36-4511



ボランティア
募集中です!

(1 生活支援)

就労者や留学生、日本人と結婚した方など、日本に住んでいる外国の方の悩みは、言葉の意思疎通はもちろん、出身国との文化の違いによるトラブルや誤解から、賃金を支払われないといった深刻な問題まで、その内容はさまざま。一言で外国人といっても、滞在理由や日本語力も異なるため、

個々の事情に合った支援が必要となります。

国際交流協会では、市内に滞在している外国人を対象に、生活の中で直面する問題の解決をサポートしています。さまざまな分野の専門家とネットワークを作り、心の健康、進学の問題や法律相談にも対応しています。

〈 支援 A 〉

日本語学習の支援

来日間もない人から参加できる日本語コースを開催しています。日本語コースでは、地域でのネットワーク作りを中心に行っているのが特徴。日常生活に必要な言葉と日本の生活習慣を知り、人間関係を広げている場作りをしています。

また、学校の勉強を理解することを目的に、市教育委員会のサポート

機関「帰国外国人教育相談室」と同様、子ども向け学習支援も行っています。

生活情報をテーマに言葉の紹介。



〈 支援 B 〉

多言語による各種相談



心のケアに関わる難しい問題も相談できます。

語学ボランティアと弁護士、労働相談員、心理カウンセラーなど7分野の専門家の協力を得て、在住外国人のための相談事業を行っています。

相談内容は労災、在留資格、進路指導や家庭内のことなどさまざま。10カ国語以上に対応しており、日本語に不安のある方も安心して相談できます。

〈 支援 C 〉

留学生の社会参加の促進

「むさしのファミリープログラム」は、留学生が市内の家庭を訪れ、1年を通じて家族の一員、友人として交流するプログラムです。地域と交流する機会を設けることで、留学生の社会参加を図ります。プログラム終了後も交流が続くケースも多く、市民同士が個人と個人の交流を深めています。



理解者が身近にいれば何かと安心できます。

体験談 生活支援事業に参加しました！

喜ばれました！



吉祥寺南町在住
山越幸江さん

留学生たちが
子どものような存在に

「むさしのファミリー」として留学生たちを受け入れ、食事をしたり、日本の伝統的な行事に参加したりしました。真面目で素直な留学生たちが思わぬことに感動する様子に、私も日常生活を新鮮な気持ちで見直しました。

助かりました！



大韓民国出身
クォン・ミリンさん

生活に必要な日本語と
情報を教えてもらいました！

日本に来たときは日本語が分からず、バスの両替ができずに困ったこともありました。MIAの日本語教室は子どもを預けて参加でき、幼稚園のお便りの読み方や結婚式のマナーまで教えてもらえて、とても助かりました。

(2 コミュニケーション支援)

外国から来た方たちは、母国との生活習慣や文化の違いに戸惑うことが多く、それがコミュニケーションをとるための支障になることもあります。

日本の習慣や文化、地域のルールを知ることが、地域で生活するうえで必要なことです。

国際交流協会では情報紙やインターネット、フリーペーパー、コミュニティFMなどを通じて、生活するうえでの必要な情報を防災情報も含めて提供しています。多言語で提供することで、多くの外国の方たちにとって重要な情報源となっています。

〈 支援 A 〉

多言語による生活情報の提供

むさしの-FM(78.2MHz)では、日本語、英語、中国語、韓国語で生活情報を提供しています。ゲストとして在住外国人が出演する番組もあります。

情報紙「MIA Calendar」では、日本語、中国語、英語、スペイン語で、MIAや行政からの情報などを分かりやすく発信しています。



- ① 外国人ゲストの生の声を伝える番組も。
- ② 4カ国語で発行する情報紙「MIA Calendar」

〈 支援 B 〉

通訳者の派遣および翻訳



震災時には避難所情報の翻訳支援なども。

日本語以外の言語に対応していない病院や学校、福祉施設、行政機関の利用を希望する外国人のために、語学ボランティアを通訳者として派遣しています。また、ごみの分別のお知らせや給付金のチラシ、予防接種の申込書など、生活に直結する文書の翻訳も行っています。

〈 支援 C 〉

外国人のための防災事業

震災などの災害時、日本語が分からない外国人にとって、避難生活がとてつもない困難となることが予想されます。震災に備えた防災訓練や多言語防災マニュアルの発行を実施。また、日頃からの地域ネットワーク作りも支援しています。



- ① 日本語教室で防災グッズを紹介。
- ② 水防訓練にも参加しました。

体験談

コミュニケーション支援事業に参加しました！

喜ばれました！

海外在住経験を生かして通訳ボランティアに参加



語学ボランティア
藤川千草さん

外国での生活経験が生きるのではと、ボランティアに参加しました。外国人からの生活相談に応じ、また専門家の通訳もしています。自分の体験が、在住外国人への多面的な支援に役立つと実感できました。

助かりました！



中華人民共和国出身
姚一鳴さん

FM番組出演で、社会活動への参加が積極的になりました

むさしの-FM「MIAプラザ」にゲストとして出演しました。出身地の産業、特産物と留学生活のことなどを話しました。すごく緊張しましたが、楽しかったです。いろいろな国の人と会って話し合うことが大切だと思います。

3 多文化共生の地域づくり

武蔵野市で暮らす外国人と地域の人が知り合い、交流する機会を設けるために、各種イベントや国際理解プログラムを実施しています。

これらの企画・運営は、国際交流協会のボランティアやスタッフのほか、商店会や学校、コミュニティセンター、NGO、NPOといった、一般市民や団体が参加しています。例えば、小・中学校、高校の教員向けの教員ワークショップでは、地域に暮らす外国人やNGOスタッフと共に授業作りを試みています。

また、外国人主体の、市民向けのイベントも実施しています。外国人会員が母国語を紹介したり、出身国の家庭料理の教室を開くなど、楽しい文化交流で地域に貢献しています。

国際交流協会では、このような異国文化理解の担い手となるボランティアを募集しています。詳しくは、国際交流協会へお問い合わせください。



武蔵野市の 青少年海外派遣事業

市では主に青少年を対象に海外派遣を行っています。外国に赴いて現地の人たちと直接触れ合い、生活を共にすることにより、国際理解を相互に深めることを目的として、海外4カ国5都市との相互交流事業を実施しています。



アメリカ合衆国・テキサス州ラボック市で友好親善を深めました！

トピックス むさしの国際交流まつりが開催されました！

さまざまな文化や交流を楽しみました！

毎年恒例の市内最大の国際交流イベント「むさしの国際交流まつり」が11月17日に開催されました。武蔵境駅前には朝から大きな横断幕も張られ、お祭りムードが漂います。

会場となったスイングビルには、午前11時の開場と同時に多くの人々が来場。特に人気の高い多文化カフェでは、珍しい食べ物を楽しみにしていた来場者たちがたくさん訪れていました。

外国の文化が体験できるワークショップや、ステージイベントが楽しめるホール企画も人気。会場内では、さまざまな言語が飛び交っていました。



来場者がメッセージを貼り付ける「セカイのサカイ遺産」



出身国オーストラリアに生息する魚をモチーフに、飾りを作る体験教室を開催しました。

ロブさん一家



過去に何回か参加していますが、毎年いろんなものを食べられるのが楽しみです！

(左から)
川島芳枝さん
登さん



武蔵野大学に留学中です。いろんな国の人と交流できるし、普段食べられないお菓子も食べられて楽しい！

(左から)
チョウ・シウさん
サイ・ケンギョクさん

